

ワークショップでの主なご意見

参加者からの主なご意見は以下の通りです。

- 斜面の緑地の整備について、単一的な形状ではなく、歩行空間として楽しめるような変化のあるものにして欲しい。勾配のゆるい場所も必要である。
- 海沿いの施設は、出入口を設けるなど、海側を表として意識した整備をしてほしい。
- 多くの人に利用してもらえよう、別府駅やスパビーチ、国道等の周辺施設からの動線、まちとどうつながかが重要である。
- 整備後の緑地の管理は、市民も含めて地域の人が参加すべきである。
- 駐車場やトイレ等の整備も検討してほしい。

整備の考え方について

- ・この別府港海岸づくりが始まったときは、自然らしい海岸ができると思っていた。しかし大型波返しブロックの護岸ができるようになった。経緯を説明してほしい。
- ・防災が重視されている印象がある。親水性や、21世紀の新しい海岸を考えると、北浜のような街中に波返し護岸はあってはならないのではないか。街中は海に降りたり水に触れたりできるところがあってほしい。
- ・当初のイメージよりも護岸が高くなっている。今日からの課題でもあるが、海を主役に、海側が表だと意識をもたないといけない。現案で、海を表として認識できるだろうか。その上で、この坂になっている緑地は、旅館街としてはどんな利用方法があるのか。
- ・別府は扇状地で海側から山に向かって登っている。海に向かって上る傾斜は住民としては抵抗感があり、斜面のつくり方を考慮してほしい。
- ・身障者用のトイレを作してほしい。
- ・歩行空間として400mの延長は単一的だと殺風景であり、バリエーションがほしい。
- ・相当なデザイン力が必要とされると思う。



周辺と海または整備部分のつながりについて

- ・せっかく作るのだから、たくさんの人にここに来てほしい。だから集客のために駅から、あるいはゆめタウンからなどの動線を考えてほしい。

- ・防災上の理由で、この波返し護岸が必要なことは納得するが、旅館や大きい建物の影に隠れた緑地を市民や県外からの旅行者にどうやって使ってもらえるのか。またこの緑地は、ゆめタウン、別大国道、スパビーチと途切れている。このエリアをどう繋ぐのか。
- ・別府駅から降りて、ある程度の距離を歩いてくると海が見えてほしい。または、海を身近に感じられる方がよい。
- ・今は遊歩道が途切れているが、浜をずっと歩きたい。
- ・立派な緑地ができると、旅館に泊まっている人以外の人にもここに来るだろう。そういう人たちの駐車場の整備はしなくてよいのか。

旅館と海とのつながりについて

- ・海沿いの旅館は海を借景にしているので、整備案を考える上で、旅館街の方の基本的な方針等の意見を聞き、これを踏まえながら検討を進めていくべきである。
- ・海側から見ると、旅館が裏側を向いているので、海側を表とした活用を考えるべきだと思う。例えば、出入口を設ける、緑地からそのまま喫茶店に入れるようにするなど考えられる。

整備後の緑地の管理について

- ・旅館などが協力して花を植える、清掃をするなどの活動をおこなってはどうか。
- ・(提案された活動に対して) 理想的だとは思いますが、この緑地を北浜旅館街の民間だけで管理するのは範囲が広すぎて無理だと思う。したくないのではなくて、全部旅館街に丸投げされたのでは困るということ。緑地の管理に関しては、よく話し合った上で市民も参加するようなものにしてほしい。

旅館関係者の意見

- ・県外から(旅館に)来る人は、海を眺めながらゆっくりしたい、くつろぎたいという人が多い。何に利用するかではなく、憩える場所になってほしい。それが旅館の集客にもつながると考えている。
- ・北側の展望スペースは大変良いと思う。そのような空間は必要である。
- ・台風など、風の強い日は旅館に向かって遊歩道の舗装のブロックが飛んできて危険である。(旅館街としては)素材にも気を使ってほしい。



お知らせ

第12回ワークショップ(北浜地区)は2月26日(金)に国際交流会館にて開催致します。詳細については後日ご案内致します。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧下さい。
<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/beppu/index.html>

別府里浜づくり新聞

第31号
平成22年
1月26日

第11回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)を開催しました



ワークショップの概要

ワークショップでは、まず別途開催している景観検討会に住民の代表として参加頂いている委員の方の紹介と座長の選出を行い、今回の北浜地区の整備に関する検討経緯や検討体制について事務局より説明を行いました。続いて、第1回の景観検討会での議論について、検討会の委員でもある小出氏よりご報告頂きました(詳細は、別府里浜づくり新聞第29号を参照ください)。次に、今年度の景観検討の要点の説明を事務局より行いました。さらに、検討会の委員長をお願いしている東京工業大学の齋藤研究室より、斜面状に計画されている緑地の勾配とその利用方法について、別府公園などの現地調査の結果を踏まえ、分かりやすく説明して頂きました。

その後、全体討議に移り、菅座長の司会進行のもと、参加者の方々による活発な意見交換が行われました。観光客や市民といった多くの人の利用が期待される北浜地区という場所において、今回整備される海岸や緑地がどのようにあるべきかという観点から、緑地の利用方法、維持管理、周辺施設からの動線や背後の旅館街やまちとのつながりなどについて、様々なご質問、ご意見を頂きました。

ワークショップの座長を務めて頂く菅健一氏の紹介

今回ワークショップの座長を務めて頂く菅健一氏は、NPO別府八湯トラスト代表理事として、別府の景観や宝ものを守っていくとの理念のもと、勉強会やシンポジウム、イベント等様々なまちづくりの活動に取り組み、多方面でご活躍されています。

平成16年度から行ってきた北浜地区の検討において、検討会の委員、及びワークショップ座長を務めて頂いた経緯から、これまでの経験を生かし、今回も引き続き座長をお願いすることとなりました。

別府港海岸(北浜地区)の整備計画の策定にあたり、これまで平成16年度から18年度にわたり、全10回のワークショップを開催し、最終基本計画を策定しました。今年度は、これまでの検討結果をもとに、飛沫防止帯、水叩き、緑地部分を中心に景観検討を行っていきます。

これまでのワークショップに引き続き、「第11回別府港海岸づくりワークショップ(北浜地区)」を平成21年12月14日(月)午後7時から午後9時まで、別府市内の国際交流会館にて開催しました。当日は、市民37名の方々に加え、さらに、大分県、別府市からも各担当者に参加いただき、意見交換が行われました。

**第12回
別府港海岸づくりワークショップ
(北浜地区) 会次第**

1. 開会
2. 高潮防護と検討体制についての説明
3. 第1回景観検討会の報告
4. 今年度の景観検討の要点説明
5. 全体討議
6. 閉会



検討会の内容を報告する小出委員



ワークショップ後参加者と模型を囲む菅座長

